資料11

協創推進の取組み状況

（令和7年3月時点）

多摩市の「協創」の取組について

協創とは

自治基本条例に盛り込みました

多世代の参画
- 子どもたち（小中学生）
- 若者（高校生、大学生、社会人）
- 現役世代・子育て世代（30代～50代）
- シニア世代（60代～）

多分野の協働
- コミュニティの醸成、地域の活性化
- 子育て、高齢、障がい、生活困窮者対策
- 教育、青少年の健全育成
- まちづくり、環境との共生

多世代にわたる参画
多分野における協働

が創出されることで、

誰もがつながり合える（多世代共生型）コミュニティ

が生まれ、これが広がりをもつことによって、

様々な地域課題の解決　＋
新たなまちの魅力や地域の価値が創造

されること

市の執行機関による必要な環境整備　（地域で協創を実現するためのしくみ・しかけづくり）

3つの視点	地域を「支える」	地域を「つなぐ」	地域の中で「掘り起こす」

「協創」の取組　-　市の進める環境整備

地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくり（R6）

3つの視点

- 地域を「支える」
  地域で活動する人・団体を応援する
- 地域を「つなぐ」
  地域で活動する人・団体が縦横につながる場・機会をつくる
- 地域の中で「掘り起こす」
  新たな地域人材を発掘・育成する

4つのしくみ・しかけ

- 協創職員制度の導入
- 中間支援機能を担う団体による伴走支援
- 多活動マッチング型の地域プラットフォームづくり
- 地域共助が可視化できるツールの導入

職員体制
研修制度

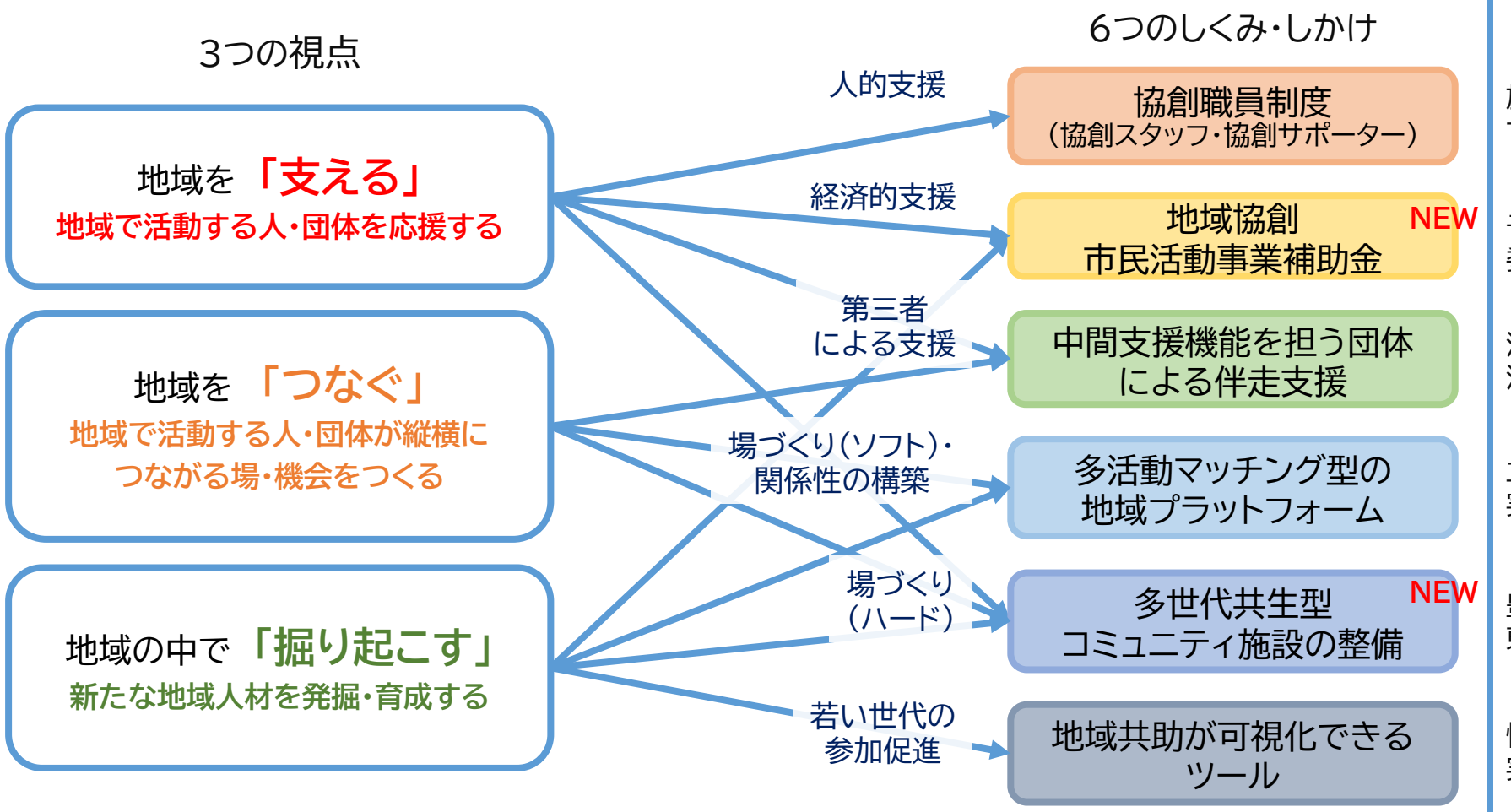
第三者
による支援

場づくり・
関係性の構築

若い世代の
参加促進

「協創」の取組　-　市の進める環境整備（しくみ・しかけづくり）

地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくり（R7～）



R7年度の取組み

- 施政方針
  サポーター本格展開
- 予算計上
  委員会での審査・評価
- 活動支援・フォーラム
  活動事例のさらなる創出
- エリア拡大
  実施方法の定式化
- 豊ヶ丘基本計画策定
  東寺方住民対話
- 情報収集
  実証機会創出

① 協創職員制度

令和7年施政方針

（「はじめに」より抜粋）

本市も昨年、多摩市自治基本条例施行20年の節目を迎え、「協創」という考え方を条例に取り入れました。高齢化が進行する中で、これまでの参画、協働を多世代、多分野に広げていくことで、多摩市らしい地域共生社会、誰もがつながり合える地域社会を実現していくことを目指しています。そのためのしくみ・しかけの1つとして、庁内の若手職員から募る「協創サポーター」制度をスタートさせました。まずは、地域のお祭りやイベントで顔の見える関係をつくり、民主主義の根幹である地域コミュニティの再生に向け、地域の皆さんの活動を応援していきます。

■議会での主な質疑

〇地域の担い手不足、なり手不足の深刻化のため、制度展開を急ぐ必要がある。

〇地域の事情を踏まえ、丁寧に進めてもらいたいが、地域は待ったなし。

〇効果を発揮していくために、継続して続けていく必要がある。

〇所管を超えた権限をもった職員が必要である。

① 協創職員制度

■協創職員制度

- ●協創スタッフ（専任職員）
- ●協創サポーター（若手職員の研修）
- ●協創シニアサポーター（ベテラン職員の活用）

地域のみなさんと一緒に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

●協創スタッフ（R6.4協創推進室設置）

■協創スタッフとしての職務内容

●地域を**支える**（≒アドバイス）
- ○分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
- ○関係課と地域との橋渡し、庁内調整

●地域を**つなぐ**（≒コーディネート）
- ○地域の会議に参加し、関係づくり
- ○団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成

●地域の中で**掘り起こす**（≒プロデュース）
- ○エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
- ○地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり

●協創サポーター（R6.10～試行）

■協創サポーター研修制度（若手職員）

●若手職員の研修として、地域のイベントや事業への参加、支援を通じて、市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る
（コミュニケーション能力、ファシリテーション能力）
⇒令和6年度は公募職員による試行（11課17名）
⇒令和7年度は2年目全職員（本年度1年目36名）

●協創シニアサポーター（構想中）

●役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討

組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

① 協創職員制度

サポーター参加事業　※17人で30行事に61回参加(1人平均3.59回)

実施日		イベント	参加人数
10月12日	土	ランタンフェス①(お子さん向けの塗り絵ブース)	2名
		かるがも館まつり①	1名
10月13日	日	ランタンフェス②(お子さん向けの塗り絵ブース)	3名
		かるがも館まつり②(御用聞きイベント)	1名
10月18日	金	東寺方秋まつり(前日準備)	1名
		からきだ菖蒲館まつり(前日準備)	3名
10月19日	土	東寺方秋まつり	2名
10月20日	日	からきだ菖蒲館まつり(後片付け)	4名
10月26日	土	つむぎ館まつり①	2名
11月1日	金	トムハウスまつり(前日準備)	2名
11月2日	土	トムハウスまつり①	1名
		ひじり館まつり①	3名
11月3日	日	ひじり館まつり②	2名
11月9日	土	ヨムカムマルシェ「防災とアウトドア」(きずな全体会72hゲーム)	1名
11月10日	日	東寺方エリアミーティング	2名
11月16日	土	誰でもカフェあたご(認知症カフェ)	2名
		こぶし館まつり(準備)	2名
11月17日	日	こぶし館まつり(御用聞きイベント)	3名
11月22日	金	若者会議　ワークショップ	1名
11月23日	土	諏訪中エリアミーティング	1名
		スポレク準備(夕方から)	3名
11月24日	日	スポレク	5名
		キタカイさんぽ館フェスタ	1名
11月30日	土	青陵中エリアミーティング	1名
12月7日	土	多摩大聖高校街なか期末テスト	3名
12月14日	土	スターライトバルコニー(公)	2名
		わがまち学習講座②	1名
12月18日	水	TFPP(高)	1名
12月21日	土	誰でもカフェあたご(認知症カフェ)	4名
		わがまち学習講座③	2名

東寺方秋まつり

きずな全体会72hｹﾞｰﾑ

スポレク

東寺方秋まつり

かるがも館まつり

こぶし館まつり

多摩大聖高校街なか期末テスト

東寺方エリアミーティング

誰でもカフェあたご

1月に、本人・所属長へのアンケート及び振り返り会を実施(参加15名)

① 協創職員制度

1/30
振り返り会

検討会立上げ

獲得できたもの・継続していきたいこと

【所属長コメント】
日常業務をこなすだけでは関わりの持てない、
地域住民との関わりを持つ機会となった

- マニュアル・手引き
- 活動目標設定
- エリアや活動指針選択
- 受入先との信頼関係構築
- 企画段階から
- 評価・フィードバック
- 庁内外の活動情報共有
- 数年経過したら理解獲得

各地域・活動の雰囲気がわかった
地域人財を知ることができた
市民の方の熱意・多摩市愛を感じた

他部署の職員との交流・関係づくり
自身の業務の紹介・情報共有の場
周りの職員との話題になった

やりがい・モチベーション向上
リフレッシュ

しくみ・制度・組織に関すること

サポーター個人に関すること

活動内容・方法（関わり方）
活動時間（振替）　出退勤入力
交通費・交通手段
市への要望対応方法
活動先の事前情報
受け入れ先とのすり合わせ
達成段階が見えにくい
サポーターとして参加していない
職員向けの対策ケア

情報発信・周知について

改善していきたいこと・支障が生じたこと

① 協創職員制度

■R7年度(本格実施)制度案

全体イメージ

	R6	R7	R8	R9
試行 R5以前入庁 17名	【協創サポーター】 公募 事務従事 (年4回程度)	【協創サポーター】 (希望者継続) 事務従事	<各自業務外> 自己研鑽	<各自業務外> 自己研鑽
本格実施 R6入庁 35名	【新任フォロー研修】 <地域実習> (講義、現場実習1日、ふり返り)	【協創サポーター研修】 悉皆研修(年4回程度)	【協創サポーター】 (希望者継続) 事務従事	<各自業務外> 自己研鑽

R6年度は試行
協創推進室に事務従事

R7年度から制度化
2年目職員と希望継続者を
「協創サポーター」に
(R7入庁の実習もあり)

メインでサポーター活動する部分

ファシリテーション研修▼

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	活動計画策定 活動目標・方針設定			活動期間 地域行事やエリアミーティングなど				ふり返り 活動内容のシェア			継続活動	
	庁内外への活動情報共有											
R5以前入庁 17名の内希望者	手引き・ルール作成 (3月から着手)			実行委員会など企画段階から実行・振り返りまで 【関係づくり・地域支援】								
R6入庁 35名	1年目の振り返りと 今後の説明(3/21)			当日・前日準備など 【きっかけづくり・知る・体験】								

②地域協創市民活動事業補助金

【概要】

● 総合計画『**施策C-3　多世代共生型のコミュニティづくりの推進**』のため、【主な施策の方向性】の1つである、「**新たな地域人材を発掘・育成するしかけづくり**」に取り組み、【成果指標】として設定した「**様々な取組みによって、地域の中で新たな事業（プロジェクト）**」を生み出していく必要がある。

●これまでのエリアミーティングなど地域の取組みでは多種多様なアイデアが市民から出される一方で、実際に実現するための経済的支援がないことが課題となっていることから、**新規の取組みや新しい参画者を増やしていくためのしかけ**が求められている。

●これらのことから、本補助事業を立ち上げ、**既存の団体の活性化や新たな担い手の掘り起こし**を通し、市民主体の地域づくりを一層推進する。

地域共助が可視化できるツール

【対象事業】

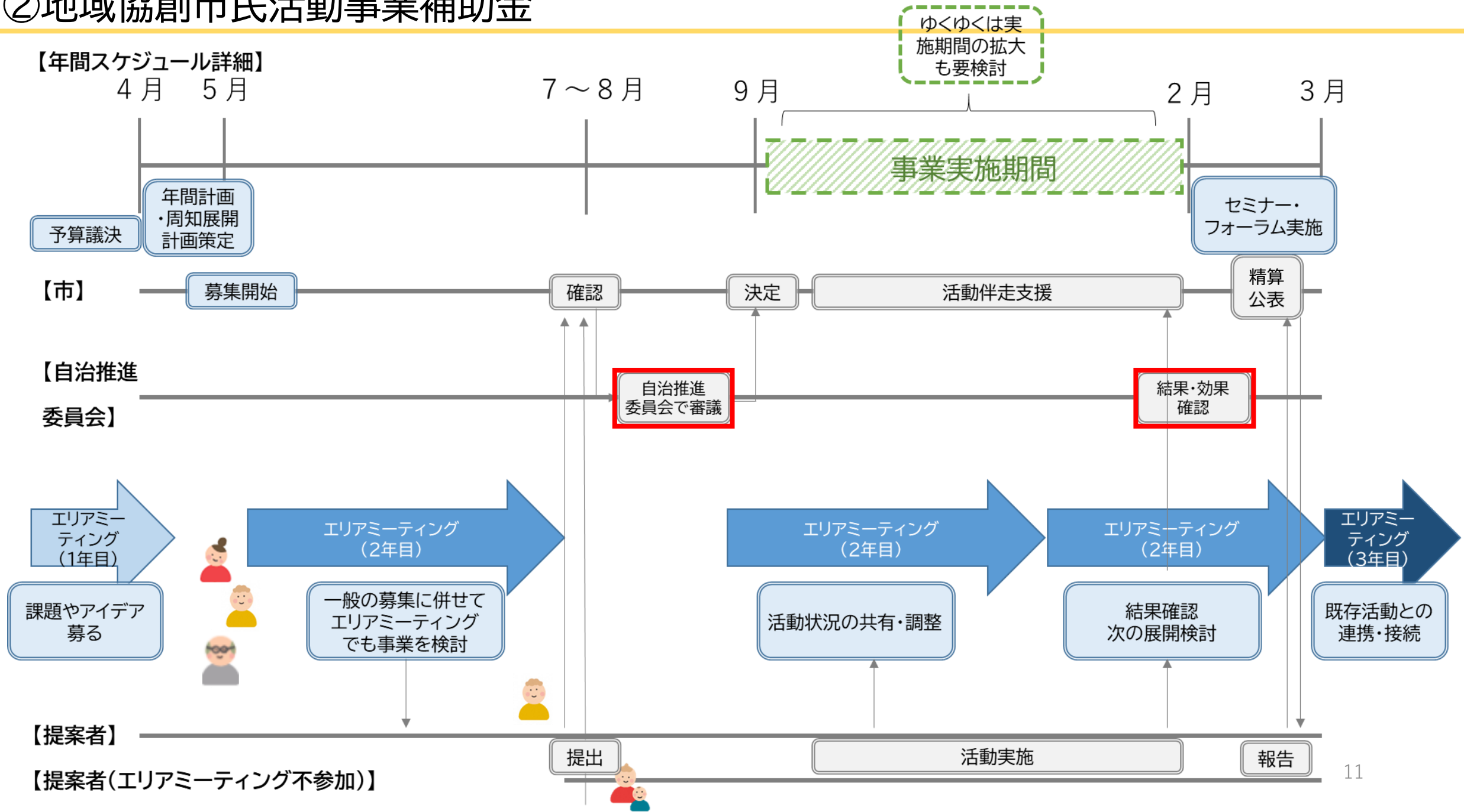
［テーマ設定型］　分野横断的な地域共助の可視化につながる事業　（50万円×1件）

［市民発意型］　多世代・多分野の地域コミュニティ形成につながる新規事業　（5万円×5件）

協創職員制度
（協創スタッフ・協創サポーター）

中間支援機能を担う団体による伴走支援

②地域協創市民活動事業補助金



③中間支援機能を担う団体による伴走支援

東寺方

諏訪

青陵

東愛宕

2/1 協創フォーラム

音楽グループなど実践の取組み

2/8寺小屋(てらこや)
焚き火の取組み

新たに自治会等との連動

3/15エリア
ミーティング

3/1エリア
ミーティング

新たな人材の発掘

5月事業化

2/16エリア
ミーティング

新たな人材の発掘・マッチング

3/22ヨムカムマルシェ

2/15,3/15
誰でもカフェ

新たなつながり創出

R7年度

補助金活用など
活動伴走支援、
多主体との連携による
活動事例の創出

3月頃 協創フォーラム

③中間支援機能を担う団体による伴走支援

協創フォーラム

※来場者アンケートは参考資料1

日　時　：　2/1(土)　14時～16時
会　場　：　中央図書館　活動室1

【対談】「多摩市自治基本条例策定とできてから20年の変化」
阿部市長と白鳥委員長

【活動報告】 市や活動者からの活動報告
中間支援組織と探究学習の高校生から、各エリアでの活動実践の紹介

【対話】(終了後)　来場者と発表者の懇談
16時以降、パネル展示と対話

発表者(高校生)

参加者43名

④多活動マッチング型の地域プラットフォーム

東寺方

諏訪

青陵

東愛宕

東寺方モデル

地域を「つなぐ」
地域で活動する人・団体が縦横につながる場・機会をつくる

既存活動団体と協力した地域での取組み（2/8かまどベンチでの焚き火）

既存活動層

これまで地域で活動されてきた方やエリアMTG過去参加者層が主な対象

動き出した段階

7/28(日) 東寺方地域 協創MTG

11/16(土) 東寺方地域 協創MTG

3/15(土) エリアMTG 兼東寺方地域 協創MTG

動き出した段階

関心層

無作為抽出

6/30(日) エリアMTG

11/10(日) エリアMTG

15,000

地域住民

地域に関心はあったけど、地域に関わって来なかった層が主な対象

地域を「支える」
地域で活動する人・団体を応援する

地域の中で「掘り起こす」
新たな地域人材を発掘・育成する

④多活動マッチング型の地域プラットフォーム

東寺方

諏訪

青陵

東愛宕

諏訪モデル　青陵モデル

地域を「つなぐ」
地域で活動する人・団体が縦横につながる場・機会をつくる

地域を「支える」
地域で活動する人・団体を応援する

既存活動層

関心層

無作為抽出

15,000

地域住民

地域で新たな取組み実践

企業(UR)との連携

動き出した段階

9/1(日)
エリアMTG

11/23(土)
エリアMTG

3/1(土)
エリアMTG

地域に関心はあったけど、地域に関わって来なかった層が主な対象

地域の中で「掘り起こす」
新たな地域人材を発掘・育成する

新エリア候補

連光寺(コミュニティ会館)
三方の森(コミュニティ会館)

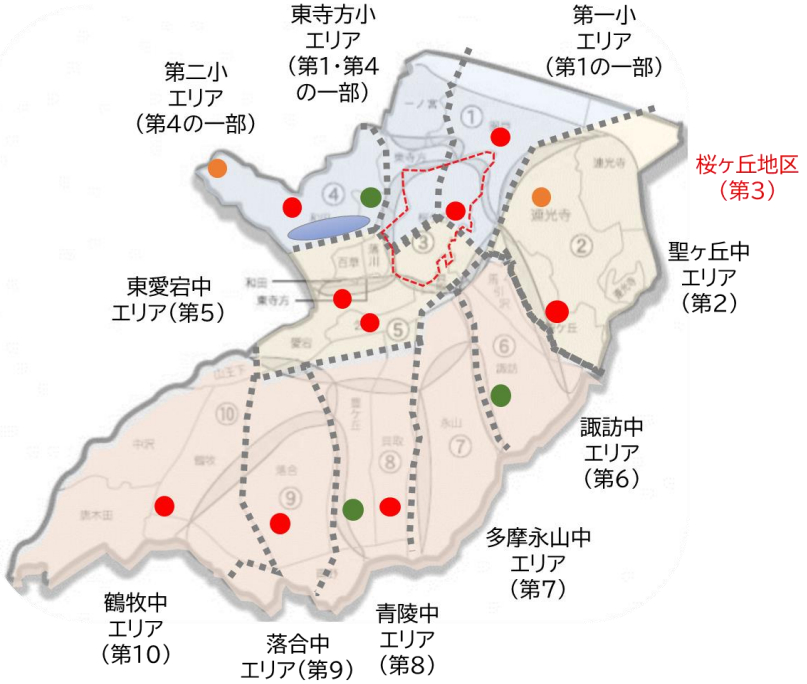
⑤多世代共生型コミュニティ施設の整備

コミュニティ施設の今後のあり方に関する基本方針（令和7年2月決定）　※参考資料2

（1）ミライのコミュニティ施設

- 少子化・高齢化が進行し、地域の中の担い手が減少している中において、子どもからシニア世代まで、子育て中や働きながらでも、また、これまでは支えられる立場にあった人たちも含めて、誰もがつながり合える、多世代共生型のコミュニティをつくりたい。
- この多世代共生型のコミュニティが生まれる場であり、「協創」を実現していく拠点となるのが、ミライのコミュニティ施設。

（2）コミュニティ施設の再編、機能転換の考え方



- コミュニティセンター
  - ① 関・一つむぎ館
  - ② ゆう桜ヶ丘
  - ③ 乞田・貝取ふれあい館
  - ④ トムハウス
  - ⑤ こぶし館
  - ⑥ かえで館
  - ⑦ ひじり館
  - ⑧ からきだ菖蒲館
  - ⑨ 大栗川・かるがも館
- コミュニティ会館
  - ① 三方の森
  - ② 連光寺

←施設を活用

- 複合施設（老人福祉館・地区市民ホール）
  - ① 豊ヶ丘
  - ② 諏訪
  - ③ 東寺方

当面の間は存続させていくことで、
エリアごとの多世代・多分野での つながりが生まれる場であり、
「協創」を実現していく拠点として位置付け

大規模改修等の時期に合わせて、
世代を問わず広く利用可能なコミュニティ施設（コミュニティセンター、コミュニティ会館のいずれか）への転換

⑤多世代共生型コミュニティ施設の整備

豊ヶ丘

整備方針策定（令和7年3月）※参考資料3
建替え
⇒今後基本計画策定

指定地域共同活動団体の検討

〇基本理念
「地域ニーズに柔軟に応え、多世代が集い、学び、つながる、豊ヶ丘の地域拠点」

令和7年度に、住民との対話にて
・施設コンセプト
・機能、サービス
・運営方法　など
検討予定

中高大学生や地域事業者との協業

諏訪

現在の施設は老朽化が著しく進行し、耐震基準を満たしていないことから、なるべく早期に、仮施設に移転したうえで、当面の間は、地区市民ホールとして運営。
近隣の都営団地建替え、UR団地再生の状況を踏まえ、今後の施設像を要検討。

令和7年度に、移転先整理
今後の方向性を要検討

関係機関や利用者との調整

東寺方

再編後もコミュニティ施設として整備し、再編後は、既存のコミュニティセンターを補完するコミュニティ会館とする。

地域の人口構成、ニーズに柔軟に対応できるような運営形態の導入についても、地域の意向をふまえながら検討

令和7年度に、住民との対話にて
「整備方針」を検討

協議検討の場にて
エリアミーティング
や活動との連動

※既存のコミュニティセンターの活動内容は参考資料4，5

⑥地域共助が可視化できるツール

地域の中で「掘り起こす」

■地域共助が可視化できるツール(地域ポイント・地域通貨)の導入

ITツールを活用し、地域参加をポイント化するなど、可視化し、
そのポイントを地域で地域通貨として使用できるしくみを導入すること
により、大学生や若い世代の参加促進につなげる

主な議論

○ＤＸ活用として、ＤＡＯ（Decentralized Autonomous Organization=分散型自律組織。すべての参加者が意思決定に加わるオンライン組織）のようなスキームを使い、地域の困りごとを解決する取組みの話がある。
○先進的な取組みを行って、誘い合わせるようになると自分も楽しみになるため関わりたいし、知人を誘い合いやすくなる。
○皆が同じようにできるわけではないので、できる人が、できるときに、できるだけやることが大切で、新しいツールなどを活用してバーチャル上でもつながりたいときにつながれるようなものであれば無理なく参加できるのではないか。

②地域協創
市民活動事業補助金

【対象事業】

［テーマ設定型］ 分野横断的な地域共助の可視化につながる事業 （50万円×1件）

情報収集・実証機会